

# 藤の沢小学校 保護者説明会 議事概要

## 1 日時・参加人数

	日程	時間	参加人数
第1回	令和7年6月19日(木)	15時00分～16時30分	30名程度
第2回	令和7年9月5日(金)	16時30分～19時30分	20名程度
第3回	令和7年12月15日(月)	18時00分～20時20分	6名
第4回	令和8年1月27日(火)	15時00分～18時15分	14名

## 2 場所

藤の沢小学校 3階パソコン室など

## 3 第1回から第4回までの主な質疑応答

質疑	回答
<p>《学校再編の周知などについて》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学校再編についての周知が不十分であり、ここまで水面下で話を進めてきたことがおかしい。</li><li>・ポスティングが届いていない。町内会の回覧板の活用や、広報さっぽろに二次元コードを掲載するなどの工夫はできたのではないか。</li><li>・保護者アンケートでは統合について賛成とやむを得ないを合わせて7割以上という結果だったが、統合が決定していない状況で再度アンケートを行えば、結果は変わるはずなので、学校再編について白紙に戻してほしい。</li></ul>	<p>検討委員会開催後、都度ニュースレターの藤の沢小・藤野南小の通学区域内全戸への配付、学校を通じた保護者への直接配付(紙・データ)、ホームページでの資料公開を行いました。この取組によって保護者や地域の皆様と情報を共有しながら、共に学校再編(統合)について検討を進めるよう努めてきた認識であり、周知が不十分なご世帯があったことは大変残念ですが、ご理解いただければと思います。</p> <p>町内会の回覧を利用した周知につきましては、町内会等に関わる皆さまへのご負担が大きくなるため避けてきたところですが、広報さっぽろの活用と併せて関係各所と調整を重ねながら、慎重に検討してまいります。</p> <p>これまで再編が決定していない段階から、周知に合わせて意見募集を行い、寄せられたご意見や、藤の沢小独自で実施していただいた保護者アンケートの結果も踏まえて検討委員会で協議してまいりました。その後に再度実施された藤の沢小のアンケート結果については、ご指摘のとおり7割程度の方々に、「やむを得ない」も含めてではありますがご了承いただけたと認識しております。</p> <p>つきましては、これまでの検討経過を白紙に戻すということは難しいと考えており、ご理解いただけますと幸いです。</p>
<p>《校名変更などについて》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・校名について変更してほしい。</li><li>・「必ずしも校名等の変更が良い方向に向かわないのではないか」という意味が理解できない。</li></ul>	<p>校名・校歌・校章も重要ですが、校名等の変更によって両校の子どもたちの間に対立などの感情が生じることが心配される中で、一日も早く打ち解け、心を通わせることができるよう、交流行事の充実等に力を注ぐ考えでございます。新しい学校の歴史は、授業や行事を通じた子どもたちの行動その</p>

	<p>ものが創り出すものであり、「自分たちの手で新しい学校を作っている」という誇りをもてる環境づくりを優先していきたいと考えています。ご理解いただければ幸いです。</p> <p>一方で、両校の子どもたちがそれぞれの学校で培ってきたもの、心のよりどころ、支えへの配慮も重要であり、未来に向けて何ができるか、今後も検討を重ねてまいります。</p> <p>「必ずしも校名等の変更が良い方向に向かわないのではないか」の意図は、校名等を変更しようとすることによって、新たな対立軸が生じてしまい、事前の合同行事等の効果が失われ、藤の沢小の児童の孤立感や疎外感が逆に増してしまうことを危惧する考えに基づいたものでございます。重ねてご理解いただきたく、お願い申し上げます。</p>
<p>《再編時期について》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開校時期は、令和10年4月より遅らせてほしい。</li> <li>・令和10年4月というのは遅すぎる。もっとスピード感をもって取組を進めるべきではないか。</li> <li>・自分の子どもが卒業するまで、学校再編は延期してほしい。</li> <li>・今の1年生は学校再編について説明を受けて入学しているが、2、3年生は説明されずに入学している。この状況で令和10年4月に再編を行うのか。</li> </ul>	<p>再編時期を「早くすべき」「遅くすべき」という双方のご意見をいただきましたが、令和7年度において、1学年1学級で1年生は7名という状況から、1学年2学級以上の適正な学校規模を早急に整える必要があると考えています。円滑な学校再編のために、事前の交流行事等、着実な準備期間を確保したうえで、令和10年4月からの運用開始が適切と判断しております。</p> <p>「自分の子どもが卒業するまでは」「事前に聞いていれば心構えができる」というお気持ちは理解しておりますが、次の年、その次の年と同じ状況の保護者や子どもが生じることとなりますので、どこかで区切りをつける必要があります。ご理解いただけますと幸いです。</p>
<p>《複式学級・小規模特認校について》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方では1学年1学級しかない学校がたくさんあるが、それでも社会に出て問題なく生活している人もいます。1学年2学級以上でクラス替えができなければいけないという基準がおかしい。</li> <li>・藤の沢小では男女・学年関係なく遊んでおり、クラス替えが無いことが悪いこととは思わない。</li> <li>・近い将来、複式学級になる可能性はあるのか。令和10年というのは複式学級となるリミットか。</li> <li>・小規模特認校にすればよいのではないか。</li> </ul>	<p>実際にそういった学校はありますが、それは通学距離等の諸事情により周辺地域で再編可能な学校がないことが1つの要因と考えております。将来、子どもたちが多様な環境や多種多様な特性を持つ人々と関わる状況に直面することを考えると、クラス替えができる環境を整備することが重要と判断しています。</p> <p>現状の人間関係が良好だとしても、10歳頃から自我が芽生え、人間関係が崩れてしまう可能性があり、その中でクラス替えができなければ、不登校や成績低下となる可能性が危惧されます。そのため、クラス替えが可能であり、多様な人間関係を構築できる環境を早急に整えたいと考えています。</p> <p>今の1年生は7名であり、仮定の話ですが、次年度に新入生が9人以上集まらなければ、2年後（3年生になったとき）に複式学級になる懸念があるため、喫緊の課題であると考えております。</p> <p>本市において、小規模特認校は、単に児童生徒数が少ないことをもって認定する趣旨のものではないため、大変心苦しいところですが、藤の沢小を小規模特認校とする予定はござ</p>

	<p>いません。ご理解いただけますと幸いです。</p> <p>なお、通学区域内の児童数が定員以上の場合、現在の藤の沢小校区に居住する児童が藤の沢小に通学できない可能性が生じるという懸念もあります。</p>																				
<p>《藤の沢小の歴史について》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・藤の沢小を“残す”検討はしたのか。</li> <li>・藤の沢小では、母校に自分の子どもを通わせるために引っ越してきて、再編について何も知らない状況で来ている人も多い。母校がなくなるという悲しみは倍になると思うのだが、その気持ちを加味してもらえないか。</li> <li>・簾舞小が再編しないのは、歴史があるからと聞いた。前例があり、歴史もある藤の沢小を再編するのは納得できない。</li> </ul>	<p>藤の沢小を残すことについても検討を重ねてきました。例えば、隣接する石山緑小や藤野南小、藤野小の通学区域の一部を藤の沢小の通学区域に変更することも検討しましたが、藤の沢小の小規模校化の解消のために、他の学校の通学区域にお住いの児童、家庭、地域に対して「指定校を変更させてほしい」と提案することになり、さらに調整が難航することが予想されます。</p> <p>また、藤の沢小を12学級規模にするためには、120～130名程度増やす必要があることから、隣接校の学級数が大幅に減少してしまい、学校規模への影響の面でも難しいと判断しています。藤の沢小学校の永きにわたる歴史を閉じることは誠に忍びないところでございますが、ご理解いただけますと幸いです。</p> <p>また、簾舞小ではバスの運行等、通学面の課題によって取組は見合わせとなっております。</p>																				
<p>《藤野地区のまちづくりについて》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・藤の沢小が無くなると、校区から子どもが減少するが、どう考えているのか。</li> <li>・藤の沢小がなくなった場合のまちづくりへの影響は。</li> <li>・まちづくりの将来像を示してもらえないと納得できない。</li> </ul>	<p>適切な学校規模の観点から、子どもの数が減少し続けている中で、今までと同じ数の学校を存続させることは難しくなっています。まずは、現在の藤の沢小の子どもたちの教育環境を整えるべく取組を進めており、今後はこれまでよりも広い視点で、藤野南小を地域の学校としたまちづくりになると捉えていただければと思います。</p>																				
<p>《通学距離について》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バス通学について現在の運行時刻で問題はないか。</li> </ul>	<p>以下、表の時刻表の運用により、登下校の利用に問題ないと判断しております。</p> <table border="1" data-bbox="655 1529 1461 1989"> <thead> <tr> <th colspan="4">登校</th> </tr> <tr> <th>バス停</th> <th>時刻①</th> <th>時刻②</th> <th>時刻③</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>藤野3-2 (バス出発)</td> <td>8:04</td> <td>8:09</td> <td>8:21</td> </tr> <tr> <td>藤野4-5 (バス到着)</td> <td>8:08</td> <td>8:12</td> <td>8:25</td> </tr> <tr> <td>藤野南小 (徒歩)</td> <td>8:10</td> <td>8:14</td> <td>8:27</td> </tr> </tbody> </table>	登校				バス停	時刻①	時刻②	時刻③	藤野3-2 (バス出発)	8:04	8:09	8:21	藤野4-5 (バス到着)	8:08	8:12	8:25	藤野南小 (徒歩)	8:10	8:14	8:27
登校																					
バス停	時刻①	時刻②	時刻③																		
藤野3-2 (バス出発)	8:04	8:09	8:21																		
藤野4-5 (バス到着)	8:08	8:12	8:25																		
藤野南小 (徒歩)	8:10	8:14	8:27																		

下校					
バス停	時刻①	時刻②	時刻③	時刻④	時刻⑤
藤野南小 (徒歩)	14:46	15:21	16:21	17:01	17:46
藤野4-5 (バス出発)	14:48	15:23	16:23	17:03	17:48
藤野3-2 (バス到着)	14:52	15:27	16:27	17:07	17:52

※2025年12月1日改正（冬ダイヤ）

《令和10年4月の運用開始まで》

- ・運用開始までの具体的なスケジュールを示してほしい。
- ・過去の交流事業について教えてほしい。

スケジュールは、下記の流れで進めていく方針です。

	令和8年度	令和9年度	令和10年度
教育面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両校の次年度書記局の交流</li> <li>・再編前の交流行事における準備</li> <li>・年間行事や総合的な学習の計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流行事等の実施</li> <li>・閉校式の準備、計画</li> <li>・校内備品の選定</li> <li>・備品等の引越し計画</li> <li>・スクールゾーンの策定</li> </ul>	再編校 運用開始
施設面	実施設計（～R8.8） 増築工事（R8.10～）		増築棟 供用開始

過去の交流行事においては、以下の通りです。

- ・もみじ台地区の4校（もみじ台小、みずほ小、もみじ台南小、もみじ台西小）の子どもたちが一同に集まり、体育館で交流事業を実施。各学校の学校紹介や校歌紹介、「じゃんけん列車」等の交流ゲームを行い、その後、4校それぞれで練習を重ねてきた「すてきな友達」を、もみじ台西小の校長先生の指揮のもと、全員で合唱した。
- ・真駒内小と真駒内曙小の児童が一同に集まり、体育館で交流事業を実施。両校の校歌を披露し、学校紹介クイズ等のゲームをして、交流・親交を深めた。
- ・真駒内南小と真駒内緑小児童が厚別区新さっぽろにある青少年科学館を合同見学。その後、一緒にお弁当を食べ、自己紹介ゲームを行い、交流・親交を深めた。

《再編後の子どもたちについて》

- ・再編校では学級数が増加するのか。
- ・子どもたちは柔軟なので適応するが、その中でも問題は起こり得る。藤の沢小は、少人数だから先生の目も行き届くが、再編後はそこまでしっかり見てもらえないと思う。
- ・再編後の藤の沢小の児童は5、6年

参考に両校の令和7年度の在籍児童数の合計により、1年生は2クラス、その他の学年は3クラス、学校全体としては17学級となります。今後の見通しは不確定な部分もございますが、概ねこのようなイメージだと考えています。

また、1学級の人数は35人以下という基準があり、同様に両校の令和7年度の在籍数でいうと、1年生は1学級28名、2、3年生は26名となっております。

「目が行き届くか」というご心配も理解するところです

生であるため、在籍中の1、2年でできることは少ないのではないかと、再編後の藤の沢小の5、6年生については、校名や行事等、なにかしら引継がれなければ、バックボーンが失われてしまい、心のよりどころ・支えがなくなってしまうことを危惧している。

が、教員数は学級数に応じて決まるため、これまで同様に子どもたちへの目配りは継続されていくと判断しております。

再編後、藤の沢小の5、6年生は再編校としての学校生活が短くなりますが、だからこそ「再編校の児童として一緒に」という意識を高め、絆を深めることができるような学校生活を創っていくことに注力することが重要と考えており、事前の交流行事や学校行事の再編等に注力してまいります。

藤の沢小の子どもたちの心のよりどころ・支えについては、藤の沢小グラウンドにある「小鳥の碑」移設や「小鳥の村」関連の物品を展示するメモリアルスペース設置を検討しています。今後もなにを残せるか等について、協議を重ねてまいります。

《駐車場不足について》

- ・ 駐車場が不足するのではないかと。

実際に増築することもあり、駐車スペースが減少するのは事実です。地域施設の駐車場を借りることができないかなどの調査を行っておりますが、現時点では見つからないため、今後も対応を検討してまいります。

《ミニ児童会館について》

- ・ 藤の沢小が広すぎるのかもしれないが、再編後、利用人数に対して使用可能なスペースが狭すぎるのではないかと。
- ・ ミニ児童会館の学年別の利用人数や具体的な活動内容を提示してほしい。
- ・ 利用時間を延ばす等の対応はどうか。

再編後のミニ児童会館の利用人数は、1日当たり130人程度となる見通しであります。児童当たり1.65㎡以上を確保するという厚生労働省の基準は満たしております。また、実際の運営上では、利用人数に合わせて体育館やグラウンド、その他ワークスペースを活用するなどの工夫をしながら運営しており、施設収容力には問題はないと考えています。

学年別の利用割合については、下表のとおりです。利用人数については、1日当たりの平均利用人数から割り戻した人数になりますので、ご参考にしていただければと思います。

また、具体的な活動内容について、参考として令和7年2月には、おりがみ教室・百人一首・料理体験・絵本の読み聞かせを行い、いずれの活動でも高学年の子が低学年の子に対して、アドバイス・サポートしながら活躍していたという報告がありました。

◎藤の沢小学校	利用割合	利用人数
高学年	20.2%	5.2人
低学年	79.8%	20.9人
合計（1日当たり）	100%	26.1人

◎藤野南小学校	利用割合	利用人数
高学年	11.0%	10.6人

	低学年	89.0%	86.0人
	合計（1日当たり）	100%	96.6人

利用時間を延ばすという対応につきましては、これまでそういった例はなく、今後も特定の地域に限定した特別な対応は難しいと考えています。今後、迎えに行く場所が藤の沢小から藤野南小になるため、今よりも5分程度かかるかもしれません。大変心苦しく、保護者の皆様にはご負担をおかけしますが、ご家庭で対応いただければと思います。

意見
藤の沢小の児童の心のよりどころについては、引き続き検討してほしい。
<p>今後は、保護者として学校と連携しながら、再編までの具体的な準備について考えていきたい。教育委員会には、これをもって関わりを絶つことなく、必要なことについては引き続きの対応・連携を望む。</p>

#### 4 保護者説明会 協議結果

藤の沢小の保護者の皆様から、学校再編(統合)について多くのご意見・ご質問をいただきました。ご要望を踏まえ、時間をかけて意見交換を行い、最終的には、校長先生や教頭先生からお話をいただいたことなどにより、以下の方向で準備を進めることに合意いただいております。

- 令和10年4月に運用開始。校名等の変更はせずに、再編(統合)前の児童の交流活動など、事前準備に注力すること。
- 今後は、学校を中心として、保護者の方のご意見も伺いながら、再編(統合)に向けた具体的な準備を進めていくこと。

#### 5 教育委員会からのお知らせ

これまで住民説明会や保護者説明会にて様々なご意見をいただきまして、深く感謝申し上げます。今後は令和10年4月の運用開始に向けて、児童の事前交流の準備や藤の沢小児童の心のよりどころについての検討等、具体的な準備を進めてまいります。取組の進捗については、適宜ホームページでもお知らせする予定です。